



公式サイト



がん征圧・患者支援のチャリティ活動

第17回

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025川越



～ひとりじゃない！大空に向かって、つなごう未来の川越～

9月27日(土)12:00～9月28日(日)10:30

会場 川越市内全域

開催本部・受付

れんけいじ
蓮馨寺

主催：公益財団法人 日本対がん協会／リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会
共催：川越市 城西大学 特別後援：アメリカ対がん協会
後援・協力：厚生労働省 埼玉県 他多数

リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会 実行委員長 野口悟
事務局：若海敬司・廣瀬哲也・遠藤大介 〒350-0011 埼玉県川越市久下戸1962-2
電話：090-4387-6158(若海) FAX：049-235-0836 メール：waka0878@jasmine.ocn.ne.jp

ひとりじゃない!

大空に向かって、つなごう未来の川越へ

三つのテーマ

祝う

Celebrate

しのび

Remember

立ち向かう

FightBack

主役はあなた! リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025 川越に参加しよう!

どんな活動をしているの?

がん征圧・がん患者への支援を目的に寄付の募集、患者サロン、がん啓発活動を行っています。がんについて多くの人が知り、正しい知識を身につけることで、がんに対する苦しみを地域全体で緩和することを目的としています。日本では、2006年にプレ開催の後、2007年に初開催されました。川越では2009年から活動を行っています。

参加方法

参加資格等はありません。どなたでもご参加いただけるイベント(みんなが主役)です。

総合案内・メイン会場 蓮馨寺(川越市連雀町7-1) 受付 境内特設テント

会場には駐車場がございませんので、公共交通機関等でお越しください。

主な催し

街全体を巻き込んだチャリティウォーク

小江戸川越ハート♥ウォーク〜川越紫化計画〜

リレー・フォー・ライフは、1985年にアメリカの医師が会場を「夜通し走って」がん征圧のためにチャリティを募ったことがきっかけで誕生しました。

現在は、「夜通しウォーク」が中心となっていますが、みんなでタスキを繋ぎ、前に進み続ける活動であることは変わっていません。

今年も、商店街の皆様の力を借りて川越の街全体がリレー会場になりました。メイン会場だけでなく、街全体を私たちが歩くことで、街を希望の紫色に染め、サバイバー(※)を応援しましょう。

※サバイバー:がんの告知を受けた方やがんの経験者

会場に来ることができなかった方を偲んで...

ルミナリエセレモニー・エンプティテーブル

夜のメイン会場には、がん患者・支援者が描いたランタン(ルミナリエ)を灯し、リレーコースに並べます。参加者は大切な人を想いながら、また、一人ひとりのメッセージを感じながら、コースを歩きます。

そして、会場の中心には誰も座っていないテーブルが一席あります。会場に来られなかった方を偲び、追悼するため、静かな音楽が流れる中、愛する人への手紙・詩の朗読を行います。

楽しむことも大切ながん対策

いろいろな啓発・患者支援事業

サバイバーテントでは、会場に来た証を手形に残す**手形フラッグ**やサバイバーの参加特典があります。また、境内では医療者による**がん治療・予防に関するセミナー**や患者どうしが語り合える**がんサロン**も行います。

勇気をもらったり、生活のヒントをもらったり...サバイバーだけでなく、家族や友人、医療者・地域の方など、がんを学ぶ貴重な機会です。

また、リレーの趣旨に賛同して参加される**チームの皆様の啓発ブース**もお楽しみの一つです。その他、関係者の提案により楽しい企画が生まれるかもしれません。企画は、公式サイトで順次お知らせしますのでお楽しみに!

タイムテーブルと主な催し(予定)

9月27日(土) 全員参加事業

12:00 開会式(記念撮影有)

・一斉ウォーク

小江戸川越ハート♥ウォーク

・参加チームによる啓発ブース

・啓発セミナー、がんサロン

サバイバートーク等の催し

19:00 ルミナリエセレモニー

・エンプティテーブル

・ルミナリエウォーク

20:00 タスキ返還

・夜通しウォーク開始

9月28日(日)

8:00 夜通しウォークゴール

10:30 閉会式

・片付け後、解散

※日程は、天候等により変更となる場合があります。公式サイトで最新情報を確認してください。

寄付金のお振込み先 ゆうちょ銀行 〇一九支店 当座預金 口座番号 0318453 名義人 アールエフエルカワゴエ
記号・番号でご送金の場合は 00170-9-318453

全国から集められた寄付金は、患者さんやそのご家族をはじめ、がんに関わるすべての方々への悩み相談の場(年間10,000件以上の電話相談等)を提供するほか、若手医師の育成、新薬の研究開発など、がん征圧に向けた活動に使われています。